

閉会の挨拶



Ts. プレブスレン
モンゴル日本語教師会 副会長

皆さま、本日は長い時間、お疲れ様でした。長い時間といってもあっという間に過ぎてしまいました。島田先生の基調講演はとても面白くて、そして実用的であったと思います。まず皆さんを代表いたしまして、そして主催者を代表いたしまして、島田先生にあらためてお礼を申し上げたいと思います。とても難しい内容を、数学に弱い言語学専門の我々に楽しくて、面白くて、分かりやすく説明してくださいました。とても貴重な学びになったと思います。これからおそらく皆、エクセルを活用して日本語のテストをはじめ、日本語教育の様々なことを分析しよう、という気持ちになったと思います。

日本語教育環境、現状はとてもスピード速く変化しています。それによって我々にとっては、教授法や指導法も変えていくことが必要とされています。その中でとても重要なことは研究なのです。研究に基づいて現状を分析し、課題を明確にし、そして解決方法を探る今の時代、とても有意義なテーマで今回のシンポジウムが行われ、島田先生のおかげで、社会学系の我々が統計分析を使って研究を進めていく上でも、とても勉強になったと思います。

21世紀の教師というのは、教えるだけではなく、研究者であるはずということが重要視されていますし、そして「数字/データ」から「質のデータ」に移るといふ哲学的なきまりもあるということをおもい、より実感、改めて理解できたと思います。今回のシンポジウムの成果は、我々にとっては日本語教育の現状の見る眼が変わったということだと思っております。

日本語教育と研究の繋がり
-統計分析を例に-

最後に今回のシンポジウムの開催に協力してくださった全ての方々に主催者を代表いたしまして御礼を申し上げます。そして、秋の恒例事業となる「第13回日本語教育シンポジウム」で再会することを期待しております。どうもありがとうございます。



参加者皆さんの集合写真